

郷土を知る
むかしむかし

昔々の

開 市のおそ

第53回



市内最古の人類の痕跡

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873



本国内ではおよそ4万年前の後期旧石器時代から、人類の活動の痕跡が確認されています。当時の自然環境は氷河期の終末期にあたり、寒冷な気候で海面もかなり低く、日本列島はシベリアや中国大陸と陸続きでした。狩猟中心の移動生活で、現代では絶滅してしまった大型の獲物を追いつながら、人々は極東の日本列島にたどり着いたとされています。

では曾於市にはいつから人が住んでいたのでしょうか……？

近年の発掘調査成果より、末吉財部インター近くにある桐木遺跡では、入戸火砕流堆積物層（通称シラス層）直上の層位から、後期旧石器時代の生活痕が見つかっています。およそ2万4千年前の遺構や遺物を最古とし、礫群と呼ばれる調理施設が総数90基検出、女性を現した岩偶、大量の石器類の出土とあわせて、石器製作の痕跡も確認されました。縄文時代が始まる1万年ほどの間、途切れることなく人々が生活を続けていた様相がうかがえます。

当時は土器や弓矢は発明されず、狩猟具の中心は尖頭器（槍）

でしたが、遺跡ではこの尖頭器の形態が徐々に変化していった様子も判明しています。古い時代のものは丁寧な調整や加工を経て形成されていたものが、次第に薄く簡略化・小型化し、最終的には穂先に細石刃を埋め込むタイプのもので変遷しており、狩猟具の軽量化や、石材コストの削減がうかがえます。

日本の環境では有機質の遺物は



耳取ヴィーナス（長さ5センチ）
女性を現わしたと考えられる岩偶
（鹿児島県指定有形文化財
（鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵）



細石刃核と細石刃（長さ2～3センチほど）
後期旧石器時代終末期の石器。黒曜石を薄く剥ぎ取り、カミソリの替刃のような細石刃を生み出します。（中尾段遺跡出土）

残存しにくく、後期旧石器時代の遺物は石器が中心となりますが、当時は豊かな自然の恵みを活用して、木製品や骨製品なども大量に使用していたと考えられます。
曾於市は入戸火砕流堆積物が50センチ200センチほど堆積し、人力では3年以上前の層位を調査することが困難ですが、まだまだ古い時代の人類の活動の跡が発見される可能性も十分に考えられます。